

家庭菜園

著作権の都合上、ホームページでは掲載できません。
お手数をおかけしますが、現物の冊子版をご覧ください。
冊子版広報誌は、JAふじ伊豆各支店に設置しています。

営農情報

最新の農業情報や肥料・資材などの新商品、
さまざまな「営農」に関わるトレンドを営農アドバイザーがご紹介

トレンド



トップ営農指導員
営農部営農課
課長補佐 齊藤 勝俊

最新肥料情勢「みどりの食料システム戦略の実践に向けて」

水稻のマイクロプラスチック流出対策



被覆肥料の殻

水田から肥料被覆膜を流出させない対策ポイント

①浅水代かき ②捕集ネットの使用

※水稻肥料がすべて被覆肥料ではありません

詳しくはお近くの営農経済センターにあります
「水田から流出させない対策をお願いします」というチラシをご覧ください。



◀ 捕集ネットの材料例として
①タマネギネット
②バーベキュー用の網
③クリップ
④園芸用の支柱



▶ 排水口にこのように設置します

近況の肥料情勢についてお知らせです。昨年から中国の肥料輸出に関する情勢とロシア・ウクライナ情勢によって、国内肥料供給も大きく影響を受けています。その他にも輸送コストの上昇・為替の状況により、「価格上昇」と「欠品する肥料も予想されています。当JAでは全農・経済連と共に供給努力をしていますが厳しい状況です。ご理解とご協力をお願いいたします。

用量30%低減、有機農業の拡大があり、生産力向上と持続性の両立を技術革新(イノベーション)によって取り組むことが求められています。今後、生産者の皆さまと共に可能性を探っていきたいと思います。今回は水稻におけるマイクロプラスチック流出対策をご紹介します。排水口や水路等で卵の殻のような物(上写真)を見たことはありませんか？追肥の労力軽減などのため、水稻用一発肥料にはプラスチック等でコーティングしている被覆肥料が使われ、肥料溶出(効き

方)を調節して、省力技術資材のひとつになっています。施肥回数・施肥量の軽減などの利点がある一方で、その被覆膜が河川や海へ流出し、海洋汚染(海洋生物が摂取してしまうなど)が問題になっています。SDGs(持続可能な開発目標)の中にも、⑫つくる責任つかう責任・⑭海の豊かさを守ろうとあります。山と海に囲まれ、豊富な水(川)に恵まれている当JA管内、被覆膜の流出を防ぎ、地域と共に持続可能なものにして